



2020 年度  
第 25 号

# 体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

## 1 トライアスロン選手 共同対策委員会

国民体育振興法改正は対処療法  
スポーツ人権を明示した  
スポーツ基本法制定が必要



## 2 文化体育観光委員会

崔スクヒョン法通過…暴力指導者  
資格停止期間拡大など



## 3 大韓体育会

強力な措置？  
…遅ればせの一罰百戒



## 4 人権から読む世の中

大韓民国エリート体育の  
真実の中に入る



## 5 今週の スポーツ関連記事



**01 【 トライアスロン選手共同対策委員会「国民体育振興法改正（故崔スクヒョン法）は対処療法、スポーツ人権を明示したスポーツ基本法制定が必要 】**

— スポーツ人権法こそ故崔スクヒョン法だ！ —

7月30日、国会文化体育観光委員会（文体委）は国民体育振興法改正を与野党の合意で議決した。国会は故崔スクヒョン選手事件再発防止のための法的制度を設けたという。

文体委を通過した改正案は目的から「国威宣揚」を削除して、「体育人権保護」の内容を追加した。「スポーツ倫理センターの機能強化」、「暴力体育指導者の制裁強化」、「人権侵害の憂慮地点に CCTV 設置」、「選手と所属機関との間の標準的な契約書の開発・普及」などが骨子だ。

数十年間、国家体育政策目標として提示されてきた「国民体育振興法」の国威宣揚条項の削除は歓迎すべきことである。過去数十年間、スポーツが国際舞台で韓国を知らせ国民に贈った喜びと誇りは高く評価されて当然だ。しかし、国威がスポーツ振興の目的になることによって、暴力などの人権侵害を容認する成績至上主義、スポーツ国家主義という弊害を生んでスポーツミートゥーや故崔スクヒョン選手死亡事件に至った根本的な原因であるという点で、「国威宣揚」の削除は晩時之嘆（訳注：時すでに遅し）である。

スポーツ倫理センターの機能強化、暴力指導者懲戒の強化と標準契約書の開発普及など法案の議決も歓迎する。一方、「CCTV 設置」はプライバシー侵害の余地があり、人権侵害の予防ではなく回避の根拠になるという点で、より慎重にする必要がある。何よりも、国家主義のスポーツを支えてきた政策と制度、慣行などを革新的に切り替えずに国民体育振興法改正だけでは対症療法にとどまるもので人権侵害を根絶することもない。

人権に基づいて全ての人のスポーツ参加を確保し、専門体育、学校体育、生活体育のバランスをなすスポーツシステムでスポーツパラダイムの転換を目的とするスポーツ基本法が必要である。スポーツ界に蔓延した暴力を予防し、メダルより人権を重視する法案が真の故崔スクヒョン法である。国会は大韓民国のすべての人が基本的な権利としてのスポーツに参加し、スポーツや身体活動の価値と効果の平等な保障を目的とする「スポーツ基本法」を制定しなければならない。

また、国会は今回の事件をトカゲの尻尾切りにせず、責任者の責任を問わなければならない。李ギフンの体育会長の辞任を要求してスポーツ界の人的刷新を牽引しなければならない。故崔スクヒョン選手死亡事件発生以来、国会与野党議員がみな体育界の暴力根絶されるように根本的な対策を用意すると言ったことを覚えている。言葉ではなく行動が重要であると言ったことを覚えている。国会はスポーツ革新委員会の勧告を文体部と大韓体育会が実施するように牽引、監視して体育界の全面革新が行われるまで継続的に関心を持たなければならない。「法案発議と議決」という法制定で任務を果たしたとしてはならない。

私たちトライアスロン選手死亡事件真相調査と責任者の処罰、スポーツ構造改革のための共同対策委は国会が故崔スクヒョン事件の真相究明と責任者の処罰のために何をするのか見守るものだ。

**2020 年 8 月 3 日**

**トライアスロン選手死亡事件真相調査と責任者の処罰、スポーツ構造改革のための共同対策委**

## 02 ニュース 2020. 7. 30

### 【国会文体位、「崔スクヒョン法」を通過... 暴力指導者資格停止期間の拡大】



国会文化体育観光委員会は 30 日、性暴行などの暴力を行った指導者の資格停止期間を現行の 1 年から 5 年に拡大して実績中心の体育育成を助長する「国威宣揚」という単語を削除する内容などを盛り込んだ別名「崔スクヒョン法」を議決した。国会文体委はこの日午前、国会で開かれた全体会議でイム・オギョン、李ビョンフン、朴ジョン、朴チュミン、李ヨン、李ヨンホ、ユ・ジョンジュ、ホン・ジョンミン、アン・ミンソク、

金スンス、ベ・ヒョンジン議員がそれぞれ代表発議した国民体育振興法の一部改正案を反映して、国民体育振興法一部改正法律案（代案）を議決した。

改正案は法の目的から実績中心の体育育成を助長する国威という単語を削除して、公正なスポーツ精神と体育人権保護、国民の幸福と誇りを強調する方向に修正した。

また、選手と所属機関長の公正契約のために標準的な契約書の開発普及をすることとし、不公正契約時に文体部長官が是正を要求するようにした。性暴力などの暴力指導者の資格停止期間を現行の 1 年から 5 年に拡大し、スポーツ倫理センターの機能と権限を拡大して加害者から通報者と被害者の保護のための一時的避難所を運営するようにして公務員などの派遣要請権を付与した。

この他にも ▲申告人と非申告人の物理的な空間分離 ▲非申告人の職位解除または職務停止措置 ▲誰でもスポーツ不正に関する事実を知っている場合、スポーツ倫理センターに通報可能 ▲選手、スポーツ指導者は、スポーツ界の人権侵害やスポーツ不正を知った場合や疑問があるときは、直ちに捜査機関等に報告 ▲長官から懲戒を要求された体育団体は、正当な事由がない限りこれを受け入れる ▲懲戒関連情報を個人情報保護を理由に提出しないことがないように明示 ▲体育人の暴力、性暴力など人権侵害のおそれがある重要な地点に映像情報処理機器を設置 ▲文化体育観光部長官が毎年スポーツ不正の実態調査を実施し発表、などの内容が盛り込まれた。

故崔スクヒョン選手は 2016 年からチームドクターと監督、先輩たちから暴行と暴言などに苦しめられたことが分かった。

去る 2 月からトライアスロン協会と大韓体育会など様々な団体に過酷行為で苦しんでいるという事実を知らせたが、どこからも助けを受けられなかった。

結局、先月 26 日、自分の母親に「お母さん愛してる、その人の罪を明らかにして」というメッセージを残して生を終えた

\*出典：<https://www.donga.com/news/Politics/article/all/20200730/102227817/1>

## 03 KBS ニュース 2020. 7. 29

### 【“寛容はない！”... 大韓体育会「遅ればせの一罰百戒」】

[アンカー]

大韓体育会は故崔スクヒョン事件加害容疑者 3 人が申請した懲戒再審を棄却して永久除名など原審を確定しました。

体育会はまた、トライアスロン協会を管理団体として指定して役員全員を解任するなど強力な措置を取ったが、遅ればせの一罰百戒（訳注：一つの罰で百人の戒めにする）という指摘です。李ジンソク記者が報道します。



【レポート】

大韓体育会スポーツ公正委員会には再審を申請した加害容疑者3人はもちろん、彼らの法律代理人さえ出席していません。公正委は彼らが提出した書面疎明資料と過酷行為の証拠などを検討した後、3人とも再審棄却決定を下しました。これにより金某監督とチャン某選手は永久除名、金某選手は資格停止10年懲戒が確定されました。

【金ビョンチョル/体育会公正委員長：「暴力が再び起きないようにとの意志を集め、このような決定を…」】  
体育会はトライアスロン協会にも責任を問いました。役員全員を解任して管理団体に指定し、体育会が直接協会運営を引き受けることにしました。しかし、今回の事件の責任から自由でない体育会が下部団体にのみ厳正な責任を問うているとの指摘も出ています。

今回の事件で辞任した人は、朴ソクウォン前トライアスロン協会会長が唯一です。

体育会側では文体部監査によりクリーンスポーツセンターの関係者数人が懲戒を受ける線でまとまると思われます。体育会はスポーツ暴力防止対策も追加で出してきましたが、暴力行為の摘発時にそのチームの団体5年出場停止以外新しいものはありません。

崔スクヒョン事件後も連日暴力と性的虐待関連報道が出てくるスポーツ界。「不寛容の原則」、「ワンストライクアウト」のような大げさな対策よりも過ちを犯した人が相当の責任を負う常識が必要な時点です。

KBS ニュース李ジンソクです。

\*出典：<http://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=4505902>

## 04 プレシアン 2020. 7. 31

### 【 大韓民国、「エリート体育」の真実の中に入る 】

去る6月26日、トライアスロン代表であり慶州市役所チームに所属崔スクヒョン選手が命を絶った。故人が監督と運動療法士、先輩から複数回殴打と苛酷行為に苦しめられた事実も明らかになった。スポーツ界の苛酷な行為が社会面を飾ることが見慣れなくなった世の中で、彼女の死を目撃することは深い悲しみと同時に絶望感を抱かせる。彼女が国家人権委員会に陳情した翌日自ら命を終えたのは、もしかしたら、これまで経験した数多くの挫折の結果かもしれない。「あの人たちの罪を明らかにして欲しい」という故人がこの世の最後に残した言葉に、国会は早々に関係者を呼んで聴聞会を開いた、大韓体育会と文体部は問題解決の意志を表わしている。スポーツ界に蔓延した暴力はどこに起因しているのか、果たして今回は異なるのか。

#### 簡単に変わらない現実

崔スクヒョン選手の死亡の1年前、ショートトラックのシム・ソクフイ選手が数年間自分を指導したコーチの暴行と性暴力の事実を告発した。2019年シム・ソクフイ選手のように、2020年崔スクヒョン選手も数ヶ月に渡って自分の所属していた慶州市役所、大韓体育会クリーンスポーツセンター、大韓トライアスロン協会の門を叩いたが、これといった支援を受けられなかった。1年前と同じように、大統領府をはじめ、文体部と大韓体育会などは強力な処罰と再発防止対策を講ずると約束をしておき、他のいくつかの暴行事件



と同様に、チーム解体とコーチ永久除名という処方が下された。これらの処方が暴行事件の繰り返しを防げなかったのはもちろんである。

幸いなことにシム・ソクフイ選手の告発の後に発足したスポーツ革新委員会の勧告は、実体的な姿を備えている。代表的に、運動選手保護法（国民体育振興法改正案）は独立したスポーツ倫理センターの運営と過酷行為に加担した指導者の資格剥奪を規定している。しかし、7回にわたる革新委員会の多くの勧告が意味するのは、スポーツ倫理センターの設立や個人に対する処罰を強化するだけでスポーツ界の性/暴力の問題が解決されるはずはないという事実である。スポーツ界で絶え間なく起こる暴力事件は倫理的ではない個人の逸脱問題ではない。問題の解決のためには「スポーツ界」自体を覗いてみなければならない。

### 「エリートスポーツ」の世界

朴セリ、朴賛浩（<sup>パクチェンホ</sup> 訳注：韓国人初のメジャーリーガー）、金ヨナなど世界レベルのスポーツスターたちがたいへんな努力の末に成功を成し遂げたという式的美談は韓国社会に広がっている。その驚異的な賞金と年俵が社会的に注目を集め運動選手は人気のある職業の一つとなったが、彼らのサクセス・ストーリーが美談としてだけ伝えられ、多様な困難に直面しているエリートスポーツ生活への関心と理解は薄い。

いわゆる「エリートスポーツ」選手は生涯早い時期に特定の種目のスポーツ選手に進路が決まって小中高大にわたって専門の運動選手に育成されている人をいう。生活の中で身体を鍛えて楽しむ「生活体育」と対比される専門スポーツ活動であり、国家はこのエリートスポーツ界に莫大な予算を投入して国民的喜びと国家的自負心を鼓吹するための良い政治的な道具として活用してきた。「国民体育を振興し、国民の体力を増進し、（中略）スポーツを通じて国威宣揚に寄与することを目的とする」という「国民体育振興法」は、大韓民国のスポーツ政策は多分に機能的であり成果志向という点を表わす。これはスポーツ活動を「競争で勝たなければならないこと」と受け入れる慣習的な認識を作った。大韓民国がスポーツ強国であっても様々なスポーツを日常生活の中で享受し、それによって楽しさを感じる健康な社会になれない理由だ。

必然的にエリートスポーツ界では、ひたすら点数で評価し認定する文化が強固である。選手はもちろん、指導者も同様に競技の実績だけが指導者を評価する。スポーツ革新委員会が代表指導者の四大社会保険と退職金保障など労働環境の改善を勧告した背景には、成績のみに血眼になったエリート体育のシステムがある。また、エリート選手たちはずっと一種目の運動に邁進してきたせいで、他の生活の経路は事実上遮断されている。選手として認められなければ、かなり早い年齢でやってくる引退後の人生も途方に暮れる。自然と選手たちは、より高い技量と成績のための訓練にまい進することになり、自分の技量を高めてくれるという理由で指導者のどんな暴力にも服従することになる序列文化に飼いならされることになる。成果の前で「暴力」は、「指導」に変身する。

選手たちに被害が発生したとき、正に問題を提起するところを探すのも難しい。国内スポーツ事業を総括執行する大韓体育会の上層部は、ほとんどエリート体育人出身が占めており、彼らは特権的派閥の文化を形成しているからである。スポーツ人権センターや不正申告センターに被害を訴えても、責任を持った大韓体育会が適切に事件を処理することが多くなかった。大韓体育会はいつも非民主的であり、腐敗した運営について批判を受け、暴行事件が発生するたびに身内かばいから抜け出せなかった。暴力的で閉鎖的なエリートスポーツの世界はこのように作られる。

### 暴力はスポーツ界の特殊性になることはできない

崔スクヒョン選手の死後、「トライアスロン選手死亡事件共同対策委員会」はスポーツ界から独立した責任ある真相調査団を要求している。徹底した調査と責任者厳重処罰は共対委の大きな要求の一つだ。7回

にわたって勧告を出したスポーツ革新委員会は、独立した人権保護機構の設立に加え、今のようなエリート選手育成システムの変化と、これを管掌する大韓体育会の権力を分散させる構造改編、生活体育が中心となる、いわゆるみんなのスポーツ基本法の制定など、事実上スポーツ界の巨大な転換を求めている。メダルに代表される成果のために容認されてきたスポーツ界の閉鎖性と暴力性を変えろという注文でもある。

このような変化のために、スポーツ界が選手たちの具体的な生活の場であり職場だという事実を認識することは重要である。崔スクヒョン選手は慶州市役所に雇用され慶州市役所との1年間入団契約を結んでコーチの指揮・監督の下で常時出勤して訓練を受け、固定的な給与支給を受けた一種の契約労働者であった。彼女の入団協約書を見れば、崔選手は契約解除問題について一切の異議を提起することができなかつたし、契約解除の理由は成績が不振または慶州市が必要と認められる時だと規定されており、いつでも解雇の脅威に悩まされざるを得ない不安定な状態であった。同時に不利な雇用条件でもその位置を維持するためには、自分を評価する指導者に依存するしかなかった。事実、ほとんどのプロスポーツ人はスポーツで生計を維持し、他の職業世界でも起きる威力による暴力や職場いじめにさらされたりする。

スポーツ選手を労働者と規定しない社会でスポーツ選手が直面したスポーツ界の暴力的文化は、「職場内の権力関係」の問題ではなく「スポーツ界の特殊性」としてだけ理解されてきた。しかし、「スポーツ界の特殊性」という言葉で蔓延する暴力を正当化することはできない。「長年の慣習」は暴力の根拠ではなく、変化の対象でしかない。その意味で真相調査団の最優先課題は、選手たちが声を出すのが難しい権力構造を明らかにすることである。また、既に提示された革新委と共対委の要求履行はスポーツ界の変化のための出発点となる。

### **選手たちに力が与えられなければならない**

さらに崔スクヒョン選手のような声をもっと大きく聞こえるようにならなければならない。選手たち自らが経験する困難を暴力と規定し、不正義に対抗できる力を持ち始める時、今と違う変化を起こす事ができる。社会的な関心が少ない不人気種目の場合、選手層自体が薄く組織自体が容易ではないという点も見逃してはならない。組織された被害者と連帯者の声が切実な中で、崔スクヒョン選手暴力事件共対委と一緒にしているスケート界の選手たちが作った若いスケート人連帯という団体に注目されている。彼らはメダル獲得や結果優先主義から抜け出し、訓練過程で選手の人権が保護される環境を作りたいのであり、被害者ではなく加害者を中心に暴力事件を扱う連盟から、被害者側に立って一緒に対応する人々である。彼らは昨年シム・ソクフイ選手が性暴力被害事件でも連盟に対立候補を立て、その結果、韓国体育大ジョン・ミョンギョ教授1人体制と呼ばれる強固なスケート連盟の力に亀裂を入れた。選手たちの声と主張に力が与えられるとき、暴力的閉鎖的なスポーツ界の文化を変えていくことができる。

7月29日、大韓体育会の理事会が開かれた。この席で体育会はトライアスロン協会の役員全員を解任し、トライアスロン協会を大韓体育会が管理する団体に指定した。理事会で李ギフン会長の「痛烈に反省する」というメッセージも登場した。しかし、そこで留まっていたはならない。スポーツ界問題の診断はすでに終わり、変更のための具体的な要求も積まれている。「その人たちの罪を明らかにしてほしい」という崔スクヒョン選手の叫びがスポーツ界全般を変化させる責任としてこの社会に残されている。

\*出典：<https://www.pressian.com/pages/articles/2020073109555876643>

## **05 【 今週のスポーツ関連記事 】**

ムン・ギョナン"故崔スクヒョン死亡、大韓体育会「職務遺棄」のせい...政府の改革意志が必要"

<https://www.etoday.co.kr/news/view/1923727>

トライアスロン協会、大韓体育会管理団体指定...選手・家族 "正常化期待"

<http://news.kmib.co.kr/article/view.asp?arcid=0014855169&code=61121111&sid1=>

[世界を見て]スポーツ人は共倒れしたいのか - 李ヒョングン (体育チーム長)

<http://www.knnews.co.kr/news/articleView.php?idxno=1330664>

韓国体育大男子ハンドボールチーム苛酷行為選手を除籍

<http://www.munhwa.com/news/view.html?no=2020072801071921338001>

忠州市、セクハラ物議の女子ボート監督罷免など嚴重措置

<https://www.idreambank.com/news/articleView.html?idxno=228963>

エリート体育の壁、その場しのぎで乗り越えられるのか

[http://news.khan.co.kr/kh\\_news/khan\\_art\\_view.html?art\\_id=202007181326001](http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?art_id=202007181326001)

道体育会、不協和音でスポーツ界暴力実態調査手つかず

<http://www.kihoilbo.co.kr/news/articleView.html?idxno=879115>

崔スクヒョン「ニュージーランドの日記」... "死ぬかも知れないが最後まで"

<http://www.hani.co.kr/arti/society/rights/956052.html>

オ・ヨンランさえ...大邱に続いて仁川市役所チームも「セクハラ」

<https://m.mk.co.kr/news/society/view/2020/07/777103/>

女子ハンドボール選手に「酒お酌」疑惑仁川市体育会のスタッフ懲戒

<http://www.hani.co.kr/arti/area/capital/955796.html>

大韓体育会、スポーツ性暴行追放のため崔ヨンス調査担当官に任命

<http://www.globalnewspaper.co.kr/news/articleView.html?idxno=3996>

相次ぐ暴力事件も...李ギフン体育会長「辞退考えない」

<https://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20200727500129>

「成績のために」選手たちに「人権放棄」強要する大韓民国スポーツ界の素顔

<https://www.insight.co.kr/news/295659>

【速報】故崔スクヒョン事態「私は叩かれて成長した」スポーツ界マインドは変わらなければ

<http://www.joongdo.co.kr/web/view.php?key=20200726010008218>

ジョン 丁 首相「人権侵害体育団体に補助金中断案検討」

<https://www.donga.com/news/Politics/article/all/20200730/102224266/1>

崔ユンヒ次官、市・道体育局長とスポーツ界の人権保護策議論

<https://www.asiae.co.kr/article/2020072813582910354>

実業チーム、ビリヤード選手の人権侵害の実態調査繰り広げる

<http://www.thebilliards.kr/news/articleView.html?idxno=11355>

## INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com